

あめ 飴だま



げんさく　にい　み　なんきち
原作：新美南吉

かんやく　た　なか　ま　み
簡約：田中麻美

て　つだ　ひと　た　ばた　みつえ
手伝ってくれた人：田畠サンドーム光恵

イラスト：AC イラスト <https://www.ac-illust.com/>

はる 春のある日のことです。二人の小さな女
こ つ の子を連れたお母さんと、強そうな侍が
わた 渡し舟に乗っていました。



ひ その日はぽかぽかと暖かかったので、
さむらい 侍はこっくりこっくり居眠りをはじめ
ました。それを見て二人の女の子はくすく
すと笑いました。



かあ ふたり
お母さんは二人に、「しづかにしなさい」と言いました。侍が怒ったら大変だからです。二人はしづかになりました。

かあ ひとり おんな こ
しばらくすると、一人の女の子が「お母さん、飴だまちょうだい」と言いました。
かあ ひとり おんな こ
するともう一人の女の子が「お母さん、わたしにも」と言いました。ところが、飴だまは一つしかありません。



「わたしにちょうどいい」

「わたしにちょうどいい」

おんな こ こえ さむらい め さ
女の子たちの声で、侍が目を覚ました
かあ さむらい おこ
した。お母さんは侍を怒らせてしまった
おも
と思いました。

すると、侍は刀を持って、女の子たち
まえ き い
の前まで来て言いました。



あめ だ
「飴だまを出せ！」

かあ
お母さんはおそるおそる飴だまを出しました
た。



すると、^{さむらい}侍^{あめ}は飴だまを^{かたな}刀^{ふた}でパチンと二
つに割^わりました。



そして、「それ」と言って、二人の女の
こ子に分けてあげました。それからさっきま
でいたところに戻って、また、こつ
っくり眠りはじめました。

